認定心理士の会から

シンポジウムを開きたい

私は3年ほど前に運営委員を拝命し，その前から合わせて5年続けて福岡でシンポジウムを開催してきました。今後シンポジウムを開催する人のために，3つの重要ポイントを話します。

①面白い人を集めて，面白い全体タイトルをつけよう：出発点は，面白い話ができる人を探しておき，リスト化することです。お友達だから，と呼ぶと失敗します。今度呼んでくれ，と頼まれても上手に断りましょう。話者が決まったら，全体のタイトルをつけましょう。無難にではなく，的確に，大胆に，夢のあるものに。②宣伝しよう：シンポジウムの計画が固まったら，プロのデザイナーに依頼してカッコいいチラシを作り，自治体や公共交通機関で宣伝してもらえるよう，無差別に依頼しましょう。事前に，コネを使って大学との共催にすることが大切です。結果的に宣伝は断られることも多いですが，依頼なしに掲載されることはあり得ません。③聴衆を敬い，発言させましょう：当日，話者は面白い話を勝手にしてくれますので，心配要りません。聴衆を不機嫌にさせないように，最大限に気を配ってください。室温は適切か，照明は暗すぎないか，休憩時間は十分にあるでしょうか。司会では「フロアから質問ありますか」と問いかけたくなりますが，聴衆は床に座っているわけではないので，「お越しの皆様から」質問を頂きましょう。サクラを出さないでください，コネなしで来てくれた聴衆の時間を奪うからです。一人でも多く発言してもらいましょう。議論が収束しない？　シンポジウムの帰り道に，聴衆一人ひとりの脳内で勝手に議論は収束しますので，何の問題もありません。それでもシンポジウムがうまくいかなかったら？　来年，次のシンポジウムを企画しましょう。

（認定心理士の会運営委員会委員　光藤宏行）

若手の会から

新しいこと・初めてのこと

今回，初めて心理学ワールドの「若手の会から」の執筆を担当しています。どのようなことを書けばよいのか，若手らしいテーマは何だろうかと初めての出来事に不安を抱くなかで，若手の多くはあらゆることが初めての経験になっているのではないかと思い至りました。就職や転職もその一つといえます。

私は，今年の春に転職を経験し，4月に新しく開所した放課後等デイサービスで特別支援学校に通う中高生との毎日を過ごしています。事業所の名前には「大人の世界に踏み出していくことを支援する」というねがいが込められています。（職員も同じ状況ではありますが…）施設が開所してまもないこともあり，新しい建物，初めて出会う人など，彼らにとって初めてづくしの世界です。

そのような中，私たちの暮らしは「新型コロナウイルス」「新しい生活様式」など，日々新しいことに直面しています。新しいことは，初めてのことでもあり，自分の知らない世界でもあります。不安や緊張が高まる，受け入れ難いことがあるなど，ネガティブな面もある一方で，多様な可能性を秘めています。最初のころは，毎日のように戸惑いやパニックが起きていた子どもたちも，今では新しい環境に適応し始め，持てる力を発揮する姿が増えてきました。彼らが日々成長していく姿は，私たち大人にとっても初めての出会いや新しい発見があり，たくさんの刺激を受けています。

今年の日本心理学会大会は，「オンライン開催」という新しく，初めての試みとなりました。いずれ気がつけば，オンライン開催がスタンダードになり，それに適応している日が来ているのかもしれません。そのような点でも，今大会はこれからたくさんの新しく，初めての経験を重ねていく若手にとっても，貴重な機会となっているのではないでしょうか。

（若手の会幹事　瀧澤颯大）